

平成 17 年度

沖縄県立埋蔵文化財センター企画展

発掘調査 速報展 2005

開催期間 2005.7.26~9.4



沖縄県立埋蔵文化財センター



もくじ



ごあいさつ1
平成 16 年度調査実施分布図2
基地内埋蔵文化財4
御茶屋御殿跡6
戦争遺跡（八重山諸島地区）8
沿岸地域遺跡10
西長浜原遺跡12
新城下原第二遺跡14
新大学院大学予定地内埋蔵文化財16
首里城跡「淑順門地区」18
首里城跡「真珠道」20
潮原古墓群22
池田上原古墓24
首里城跡「二階殿」26
沖縄の歴史年表（調査遺跡の時代）28
発掘調査のきっかけ（動機）とは30

凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「発掘調査速報展 2005」を補完するものとして編集した。
2. 許可なく本書の複製および転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県内には、現在2,500件の遺跡（埋蔵文化財）が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、これらの埋蔵文化財について発掘調査や分布調査を実施し、調査研究をとおして先人が残した貴重な文化遺産の保存と活用を図っています。

具体的には、過去の集落跡や貝塚、グスク、墓など、人々の生活の痕跡が残っている遺跡を、考古学的手法を用いて発掘調査をおこない、その成果を分析・研究して沖縄の歴史や文化を明らかにしていきます。

また、ひととおりの調査研究が終了した成果物、すなわち土器や石器、貝製品、骨製品、陶磁器などの出土遺物と記録類（写真や図面、調査報告書などの資料）については、当埋蔵文化財センターに収蔵保管すると同時に公開をおこないます。ただ、発掘調査から調査報告書を刊行して公開するまで数年を要することがあります。

そこで当埋蔵文化財センターでは、調査の概要や主な出土遺物を公開し、早い時期に多くの方々に見ていただきたいと考え、前年度に実施した調査の成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年おこなっています。

今回の「発掘調査速報展2005」では、2004（平成16）年度調査を実施した西長浜原遺跡や新城下原第二遺跡、首里城跡（淑順門）、首里城跡（真珠道）、御茶屋御殿、池田上原古墓、潮原古墓群の主な調査成果について、出土遺物や写真パネル、解説パネルで概要を紹介しております。また、新大学院大学予定地内埋蔵文化財予備調査や基地内埋蔵文化財調査、戦争遺跡詳細分布調査（八重山諸島）、沿岸地域遺跡分布調査の成果についてもパネルで紹介しております。

その他に平成16年度刊行の発掘調査報告書のうち首里城跡「二階殿」に係る地区から出土した輸入陶磁器を展示します。これらの輸入陶磁器で主体となる陶磁器の製作時期と種類は、当埋蔵文化財センターで保管・管理している国の重要文化財「首里城京の内跡出土陶磁器」と同時期（14世紀後半～15世紀中頃）であり、その種類や内容からも中国産の青磁や染付などの他にタイやベトナムの陶磁器が含まれるなどの類似性から今回の速報展に追加しました。

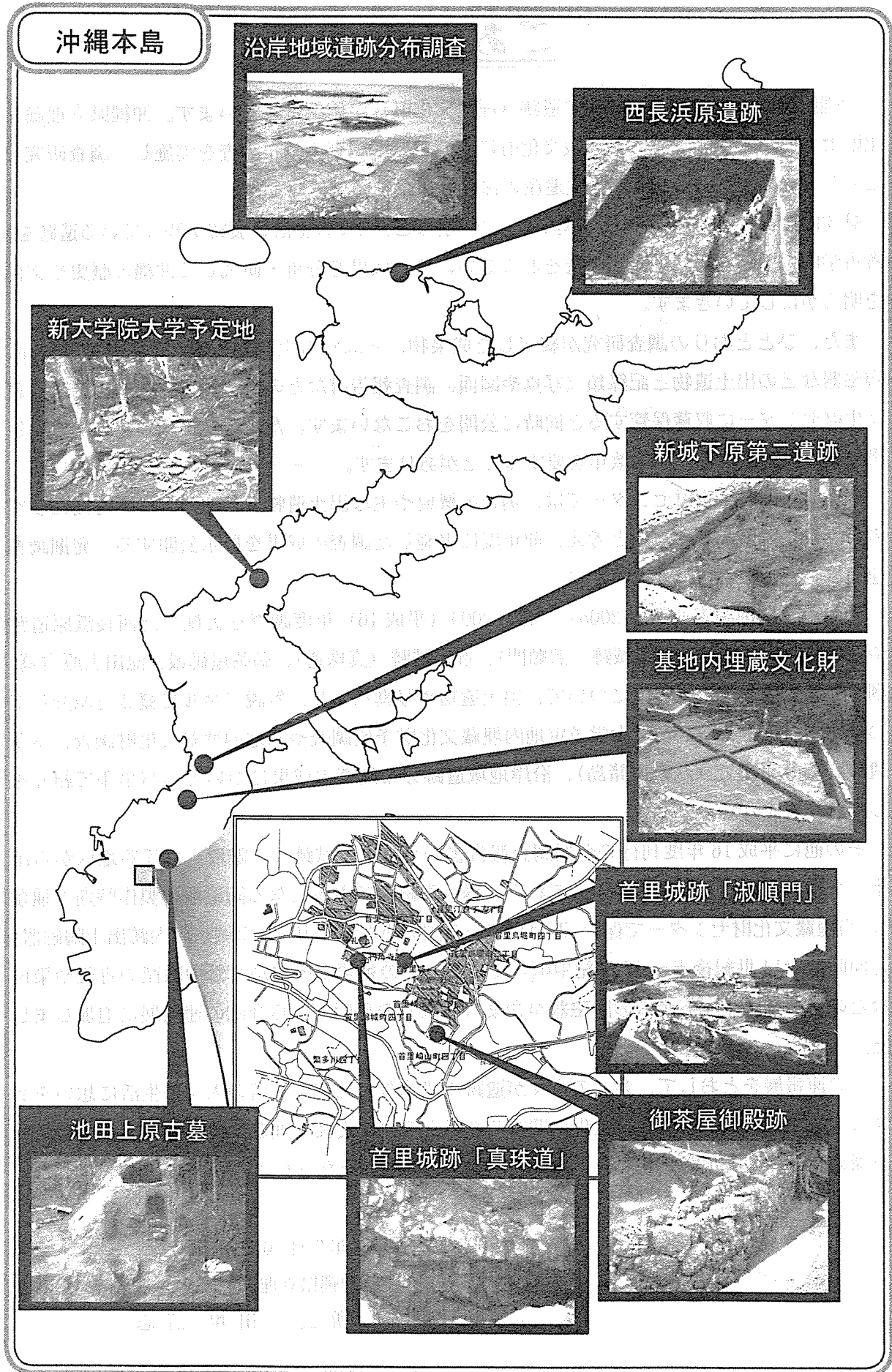
この速報展をとおして、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、昔の人々の生活に想いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に関する知識とそれを支える埋蔵文化財の重要性への認識を深め、当埋蔵文化財センターの業務と役割をご理解いただければ幸いです。

2005（平成17）年7月26日

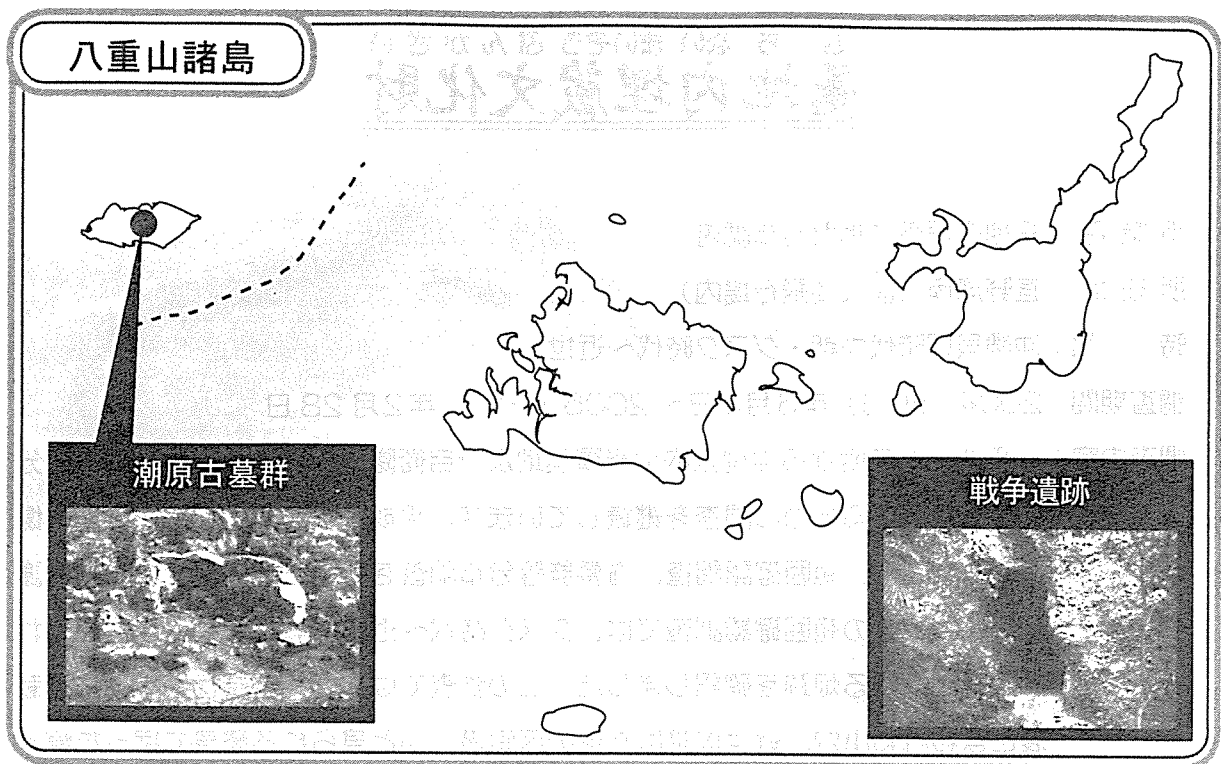
沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 田場 清志

平成 16 年度調査実施分布図



八重山諸島



平成 16 年度発掘調査一覧

事業名	所在地	時代区分
基地内埋蔵文化財分布調査	普天間基地内	沖縄貝塚時代中期 ・グスク時代～近世
御茶屋御殿遺構確認調査	那覇市首里崎山町	近世～近代
戦争遺跡詳細分布調査	八重山諸島地区	近代
沿岸地域遺跡分布調査	沖縄県全域	先史時代～近代
西長浜原遺跡範囲確認調査	今帰仁村字与那嶺	先史時代
キャンプ瑞慶覧内発掘調査	宜野湾市字安仁屋	貝塚時代後期、近世
新大学院大学予定地内埋蔵文化財予備調査	恩納村南恩納・谷茶	中世～近代
首里城跡「淑順門」地区発掘調査	那覇市首里当蔵町	グスク時代～近代
首里城公園発掘調査（真珠道地区）	那覇市首里当蔵町	グスク時代～現代
潮原古墓群発掘調査	八重山郡与那国町字潮原	近世～近代
池田上原古墓発掘調査	西原町字池田	近世

きちないまいそうぶんかざい 基地内埋蔵文化財

吉原山系

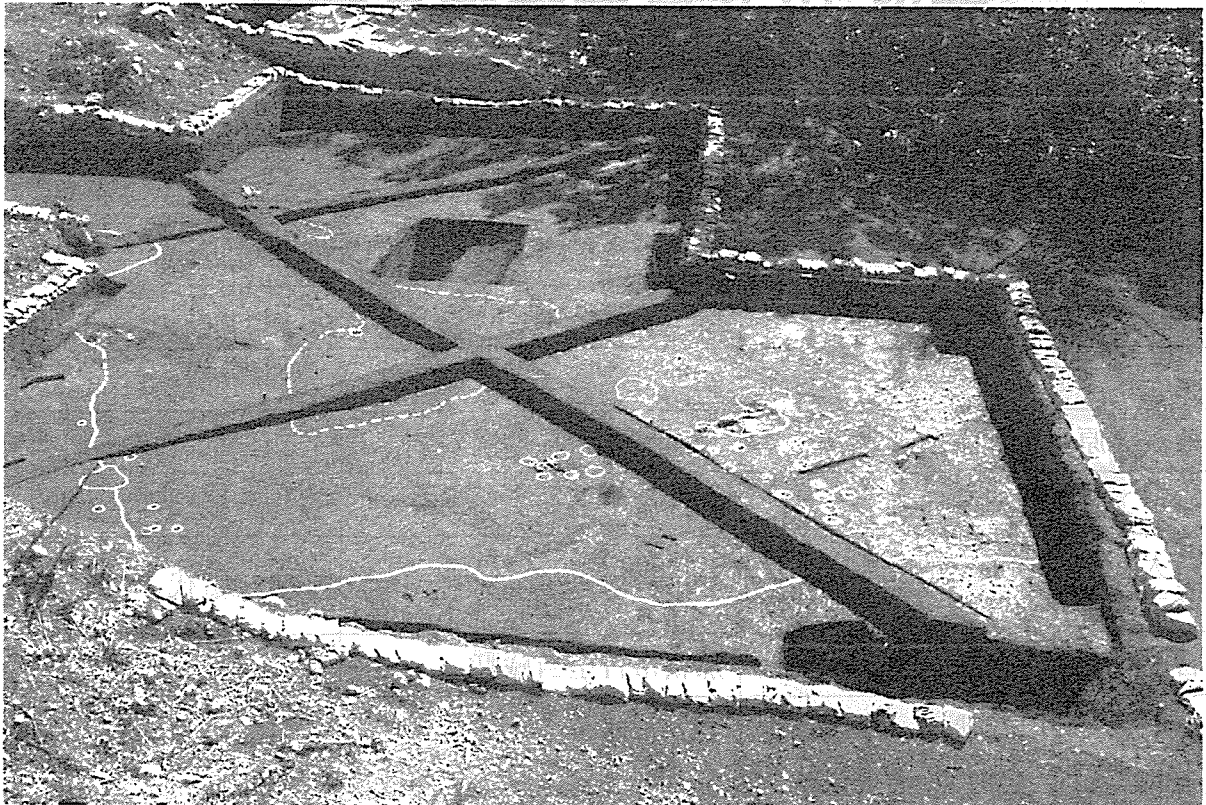
事業名：基地内埋蔵文化財分布調査

所在地：宜野湾市（普天間飛行場内）

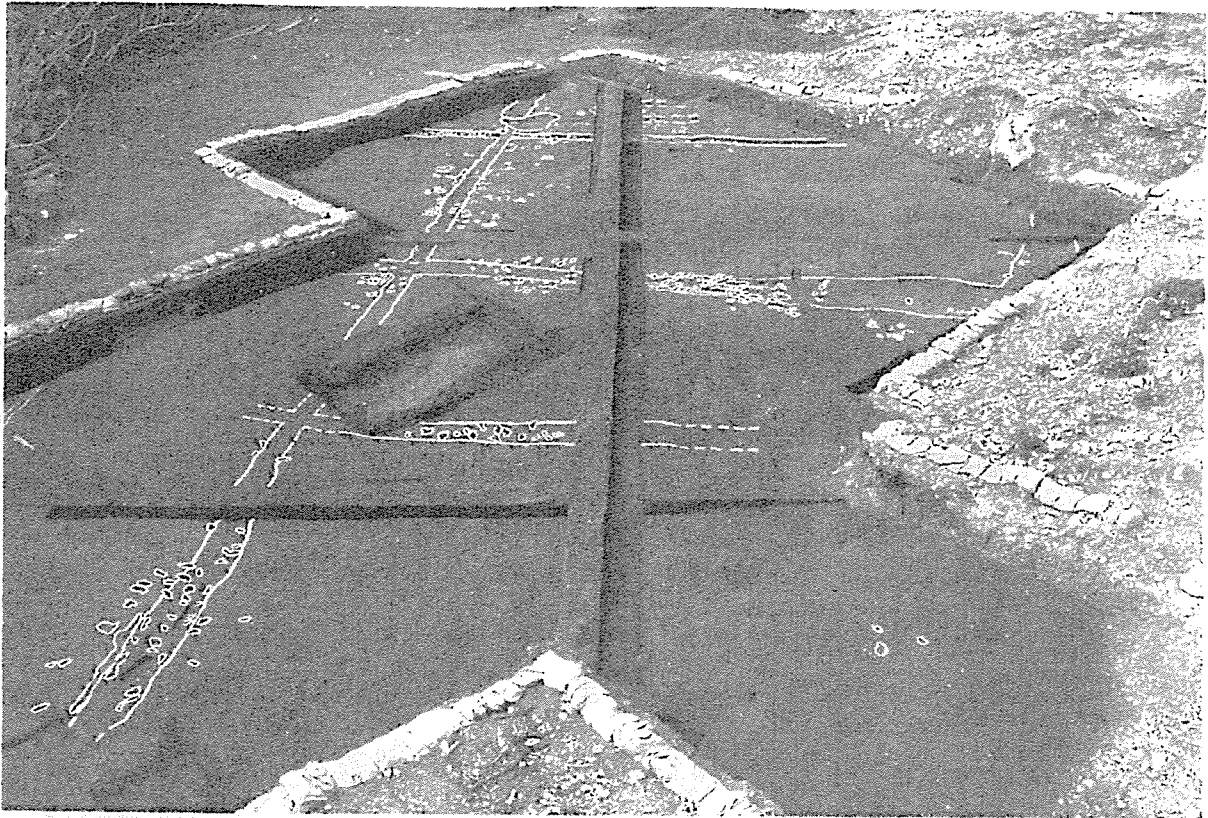
時代：沖縄貝塚時代中期・グスク時代～近世

調査期間：2004（H16）年6月1日～2005（H17）年2月28日

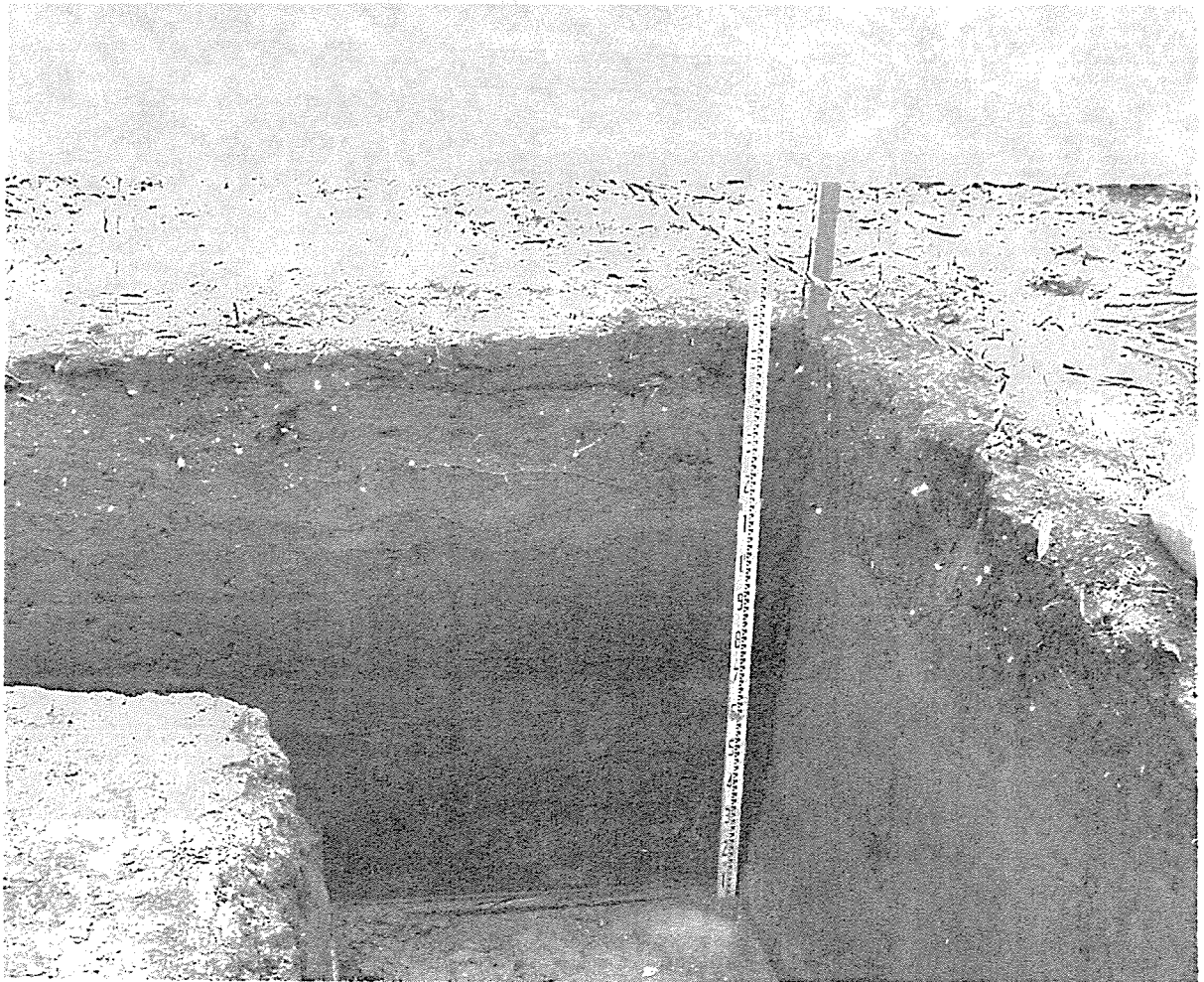
調査内容：平成11年度から沖縄県内の米軍基地及び自衛隊基地にある埋蔵文化財の分布状況把握するための調査を継続しています。平成16年度は、普天間飛行場内の試掘調査、範囲確認調査、古墓群等分布調査を実施しました。特に、大謝名軍花原地区の範囲確認調査では、グスク時代～近世、戦前まで耕作が行われたと考えられる畑跡を確認しました。この調査では、グスク時代の畑地は植栽痕と言われる小穴、近世以降は方形の区画溝、鋤と見られる農具で掘った痕という異なる形態の耕作遺構を確認しました。



大謝名軍花原地区 グスク時代の耕作遺構



大謝名軍花原地区 近世の耕作遺構



大謝名軍花原地区 グスク時代～近世・戦前に及ぶ耕作土

う ちゃ や う どん あと 御 茶 屋 御 殿 跡

事業名：御茶屋御殿遺構確認調査

所在地：那覇市首里崎山町

時代：近世～近代

調査期間：2004（H16）年8月2日～2004（H16）年8月31日

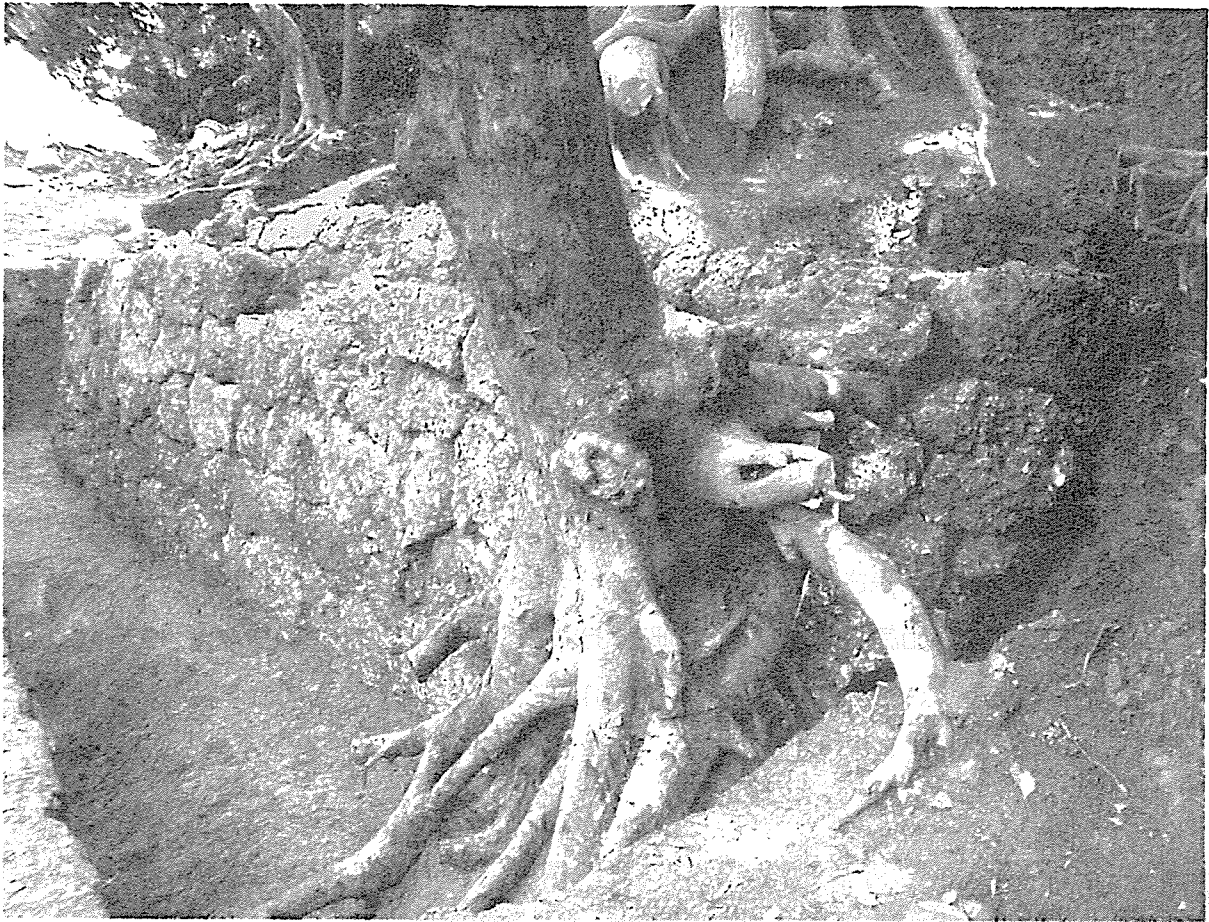
調査内容：御茶屋御殿跡の範囲と遺構を確認する目的で、平成12年度から継続で調査を行っています。平成16年度の発掘調査は御殿跡の南西に位置する石積みの広がりとその性格を確認する目的で実施しました。その結果、石積みは土留めのために設置されていたことがわかりました。出土した遺物には中国製の青磁と染付、その他に土器などもありました。

調査風景の断面 図が裏紙裏表に拡大

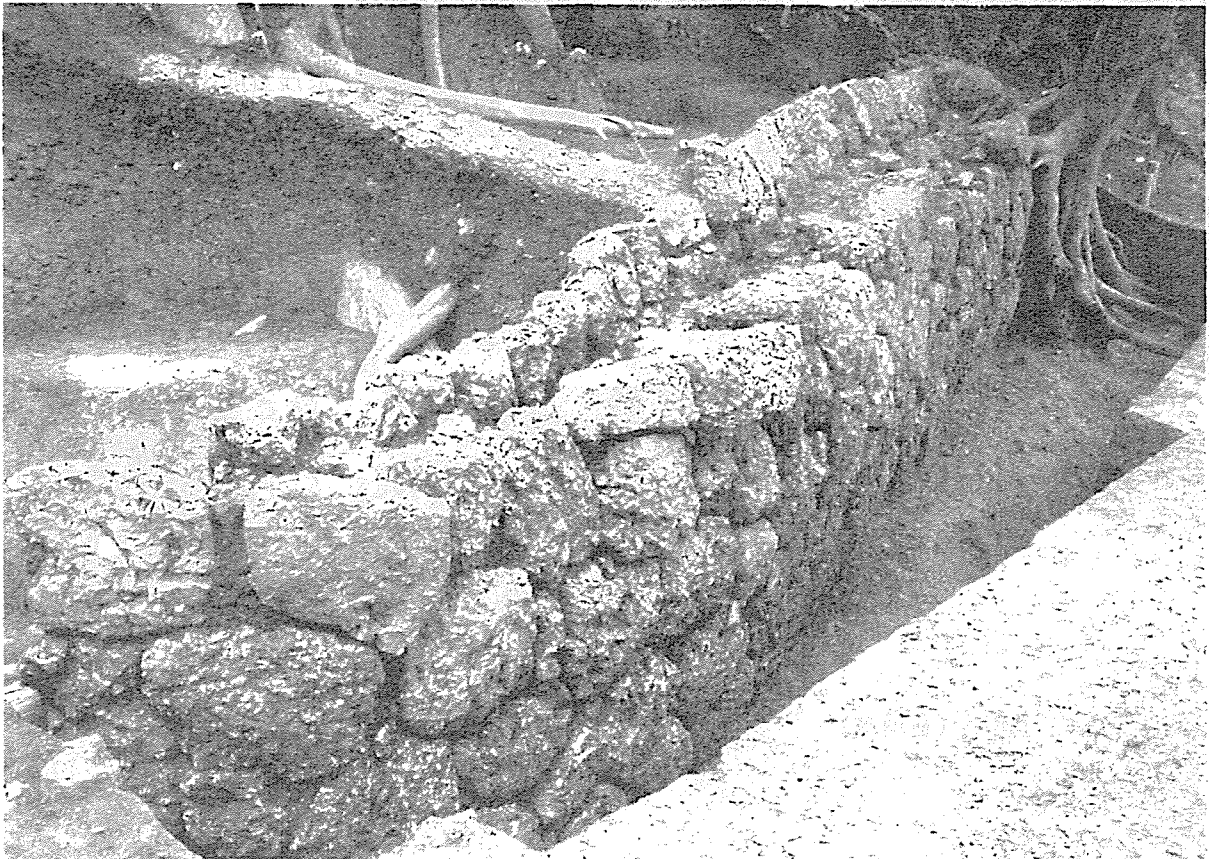


調査風景

調査風景の断面 図が裏紙裏表に拡大



石積み（東より撮影）



石積み（西より撮影）

戦争遺跡 (八重山諸島地区)

事業名：戦争遺跡詳細分布調査

所在地：八重山諸島地区（石垣市、竹富町、与那国町）

時代：近代

調査期間：2004（H16）年5月1日～2005（H17）年3月31日

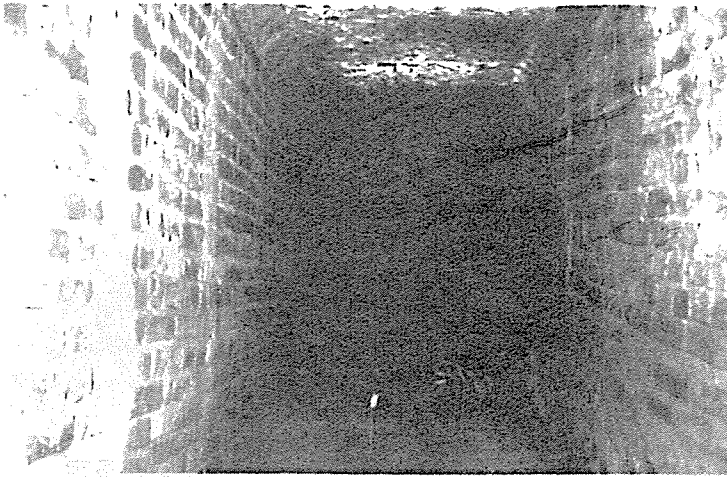
調査内容：戦争遺跡詳細分布調査は近代以降の戦争（沖縄県においては沖縄戦）と、その遂行過程の中で、戦闘や事件の加害・被害に関わって沖縄県内で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構の分布状況を確認することを目的としています。八重山諸島に属する3市町において、110遺跡が確認されました。主な調査として、①構造物・遺構の実測作業②地図中への記入（分布図作成）③聞き取り調査、等を実施しました。



於茂登前山の高射砲砲座跡
(石垣市)

石垣氏宅の避難壕（石垣市）

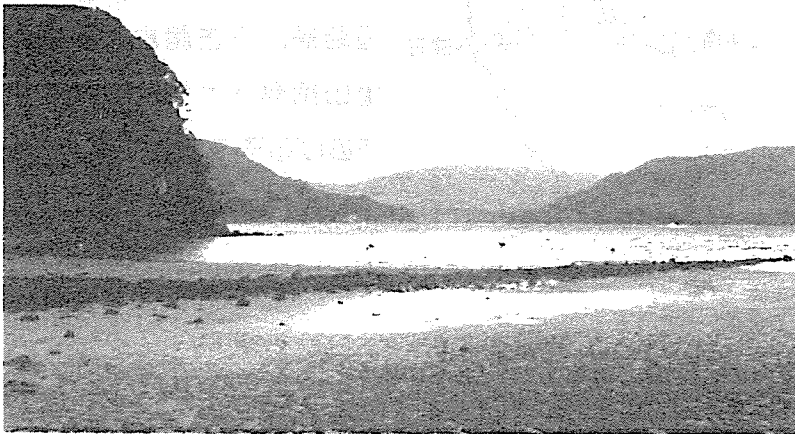




平喜名飛行場跡の地下壕群
(石垣市)

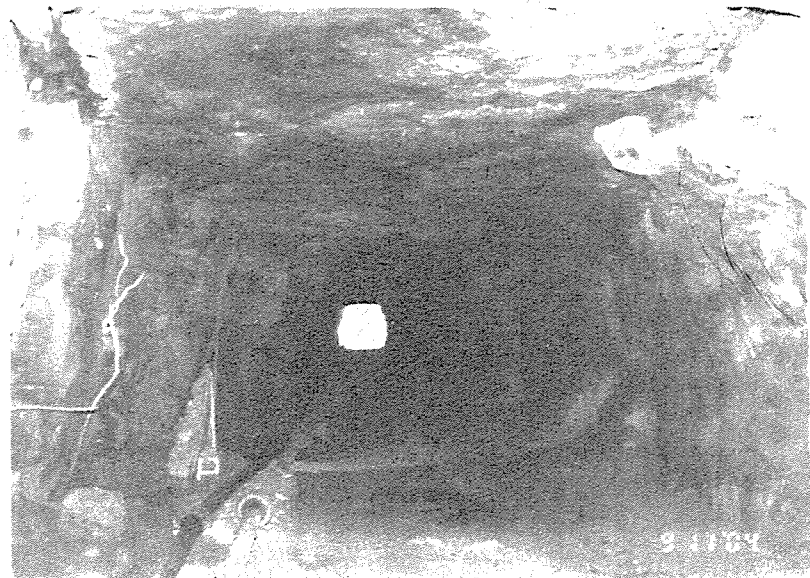


竹富島南海岸の銃眼 (竹富町)



船浮の戦争遺跡群棧橋跡
(竹富町)

船浮の戦争遺跡群防空壕
(竹富町)



えんがんちいきいせき 沿岸地域遺跡

事業名：沿岸地域遺跡分布調査

所在地：沖縄県全域

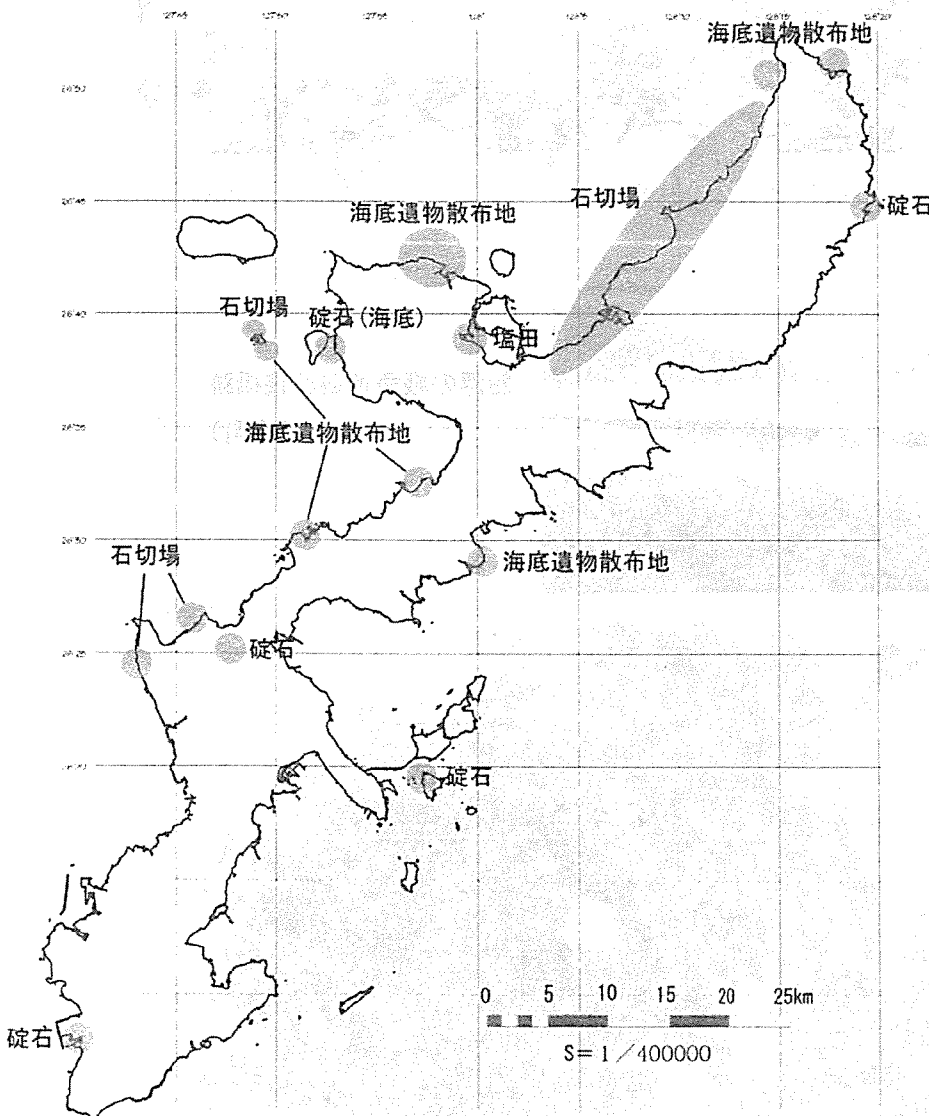
時代：先史時代～近代

調査期間：2004（H16）年6月1日～2005（H17）年3月31日（随時）

調査内容：本事業は平成16年度より開始し、平成20年度までの5年間実施する予定です。今年度は沖縄県本島北部及び中部を中心に、海岸及びリーフの表面踏査、海底調査を行いました。

その結果、中世から近世の舶載陶磁器や沖縄産陶器が散布する海岸や海底、近代の石切場跡や塩田跡等が確認できました。また、本部町瀬底島アンチ浜沖

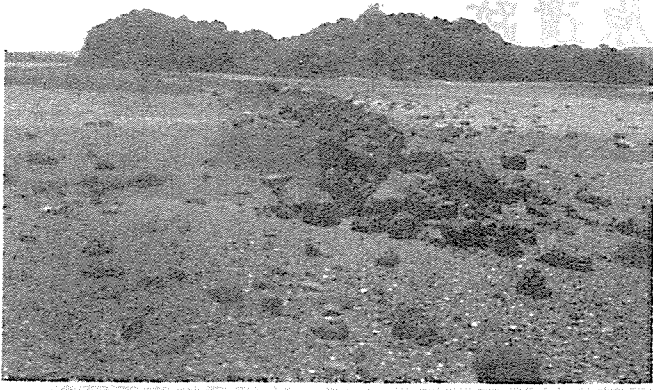
平成16年度 沿岸地域遺跡分布調査



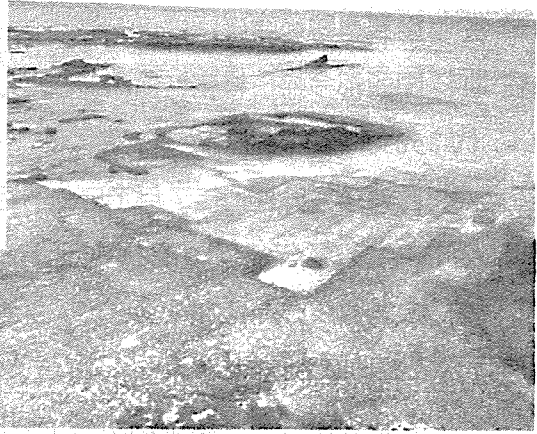
では、沖縄県では初めて海底で碇石を発見しました。

今後は本島南部、周辺離島、宮古諸島、八重山諸島へと調査範囲を広げる予定です。

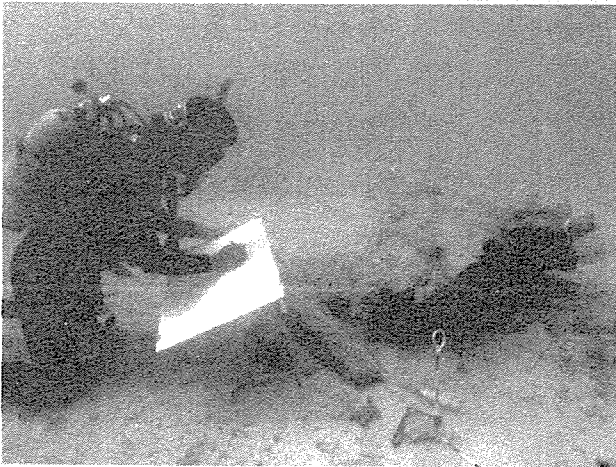
沿岸地域遺跡（沖縄本島）の分布状況



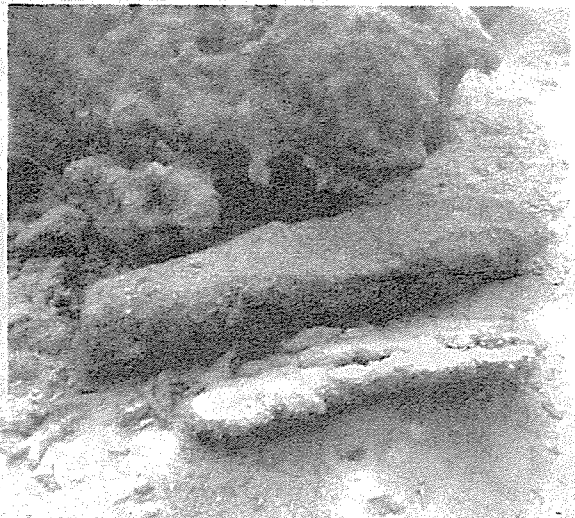
塩田跡（今帰仁村）



石切場跡（読谷村）



調査風景（瀬底島沖）



碇石発見状況（瀬底島沖）



タイ産褐釉陶器散布状況（水納島海底）



青磁散布状況（グスク付近の河口）

にしながはまばるいせき
西長浜原遺跡

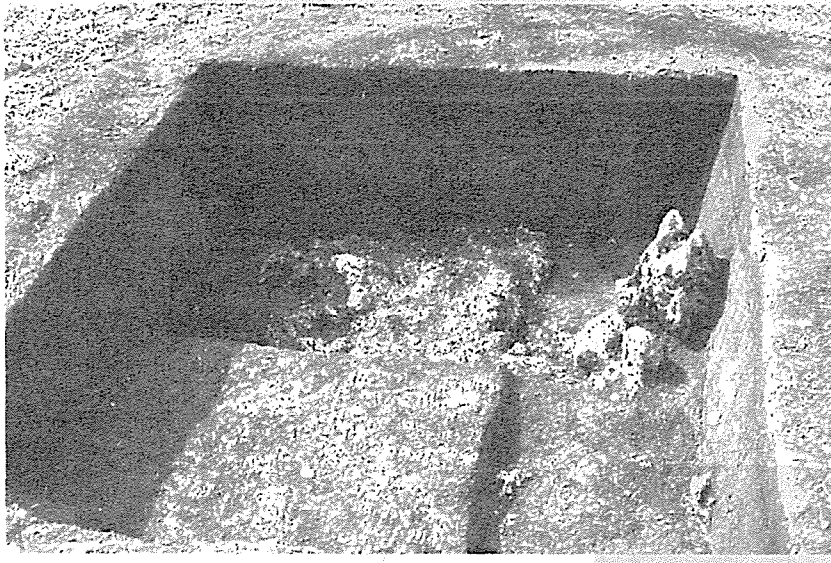
事業名：重要遺跡範囲確認調査

所在地：国頭郡今帰仁村字与那嶺 1088、1255 番地

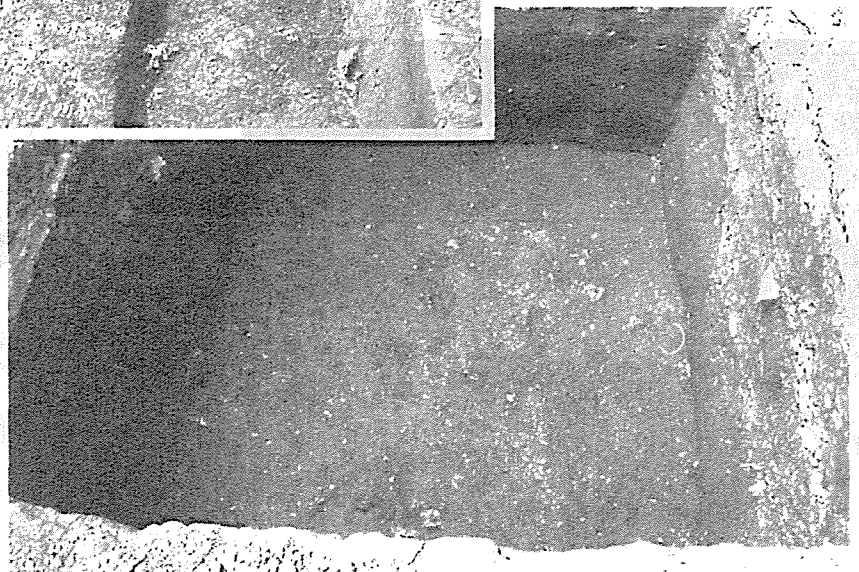
時代：先史時代

調査期間：2004（H16）年7月1日～7月24日

調査内容：1977年に宿泊施設である梯梧荘の拡張工事に伴って、沖縄県教育委員会による発掘調査が実施され、住居址や大量の遺物等、多くの調査成果をもたらしました。2004年度の調査では当該遺跡の広がりを確認するための調査を実施しました。試掘場所を7箇所設定し、遺構、遺物の確認を行ったところ、1977年の調査区北側に設定した試掘ポイントから柱穴と遺物が確認されました。柱穴は調査範囲が狭いため建物プランを把握することはできませんでしたが、出土遺物は土器、石器が確認されました。土器、石器は何れも小片であり、詳細は今後の資料整理によって明らかにされるものと思われます。



No. 1 グリッド



No. 2 グリッド

55 1. 3 65 55 6. 1 7 6 8 9
椒壹二葉氣不敷活



No.1 グリッド遠景 (南西から)



No.1 グリッド掘削作業



No.1 グリッド掘削作業

あらぐすくしちやばるだいにいせき
新城下原第二遺跡

事業名：キャンプ瑞慶覧内発掘調査

所在地：宜野湾市字安仁屋前原ほか

時代：貝塚時代後期、近世

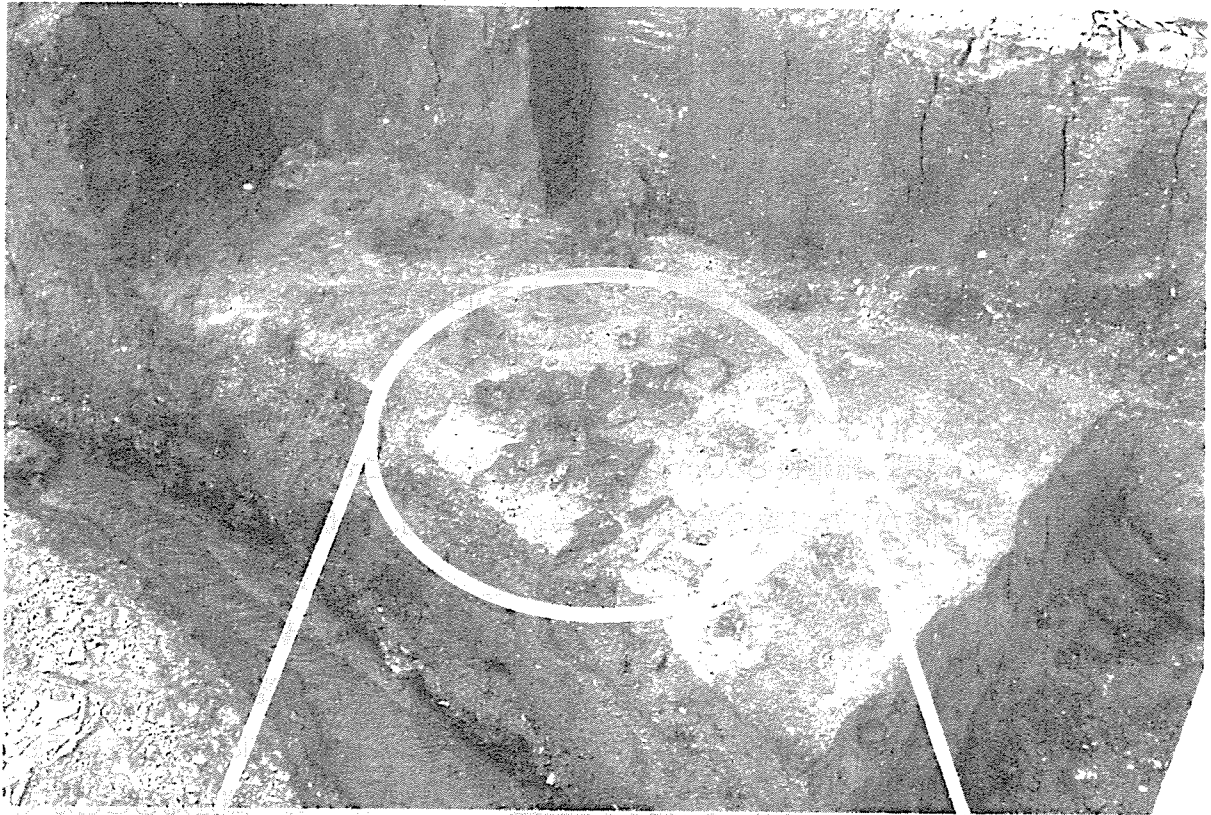
調査期間：2004（H16）年8月1日～9月30日

調査内容：本発掘調査は平成11年度からの継続事業であり、平成16年度をもってついに6ヵ年目を向かえました。その結果、近世においては保存状態が良好な耕作遺構とそれに伴って木杭等が出土しました。貝塚時代後期においては川跡が確認され、それに伴って多量の土器が出土しました。

平成17年度は6年間の発掘調査成果をまとめた報告書を刊行する予定です。



耕作遺構検出状況



土器出土狀況

しんだいがく いんだいがく よてい ちない まいぞう ぶんかざい 新大学院大学予定地内埋蔵文化財

事業名：新大学院大学建設予定地内埋蔵文化財予備調査

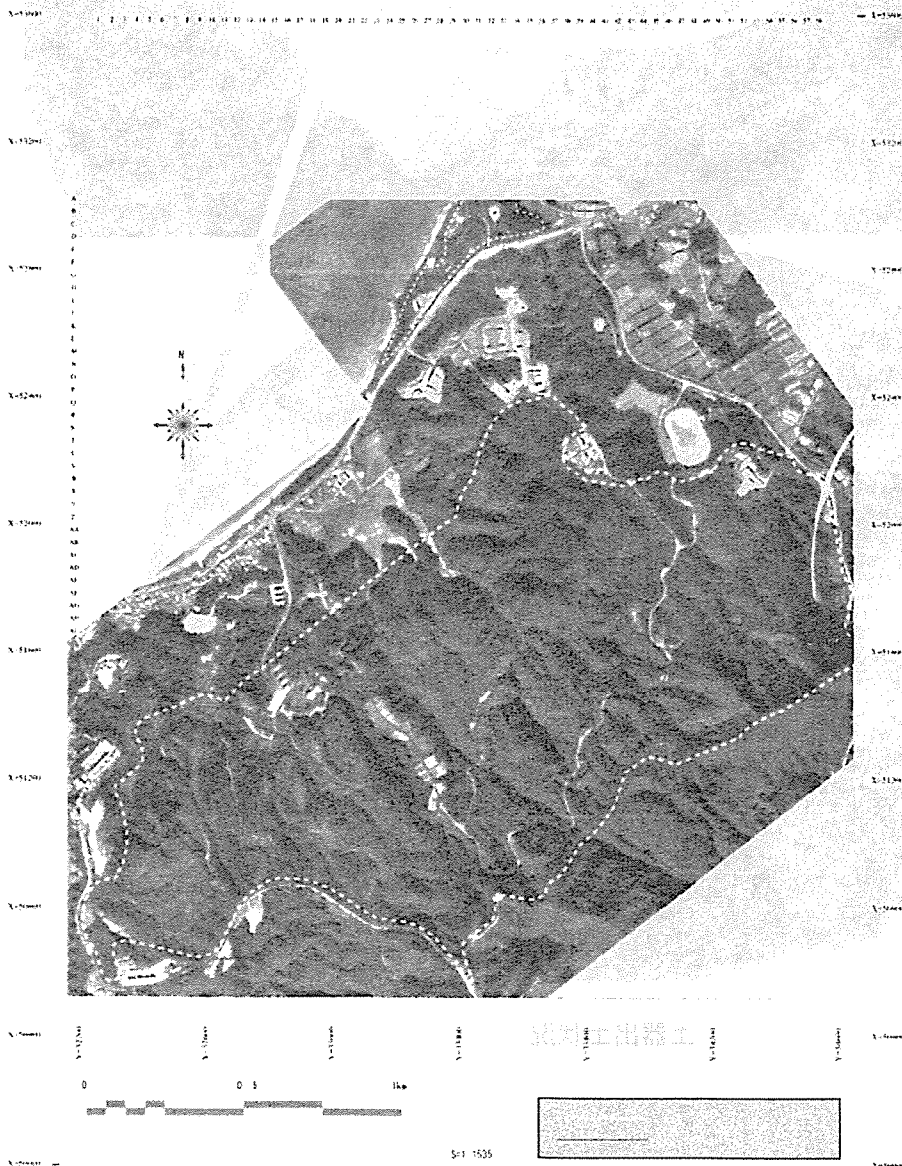
所在地：恩納村南恩納・谷茶

時代：中世～近代

調査期間：2004（H16）年2月1日～2005（H17）年4月30日

調査内容： 沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地は総面積222.1haを有し、緑豊かな丘陵部と美しい海岸部に分かれています。今年度の予備調査は表面踏査を中心に行いました。

その結果、総延長800mを超える長大な猪垣とそれに関連する落とし穴、沢沿いに築かれた多数の炭焼窯、階段状の平坦面、畝状遺構、溝状遺構、石列遺構、テーブル珊瑚集積、グスク等の遺構が確認され、恩納村の丘陵部における生産活動の一端を知ることができました。平成17年度は試掘調査を行う予定です。



大学院大学予定地と調査範囲

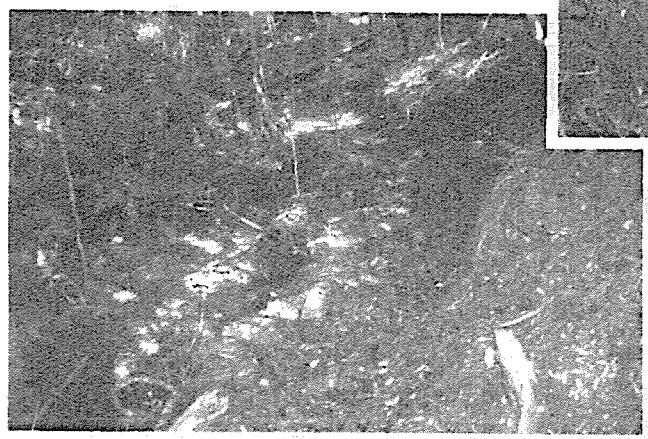


炭焼窯

猪垣
猪垣



猪垣



古道?

猪垣
猪垣



畝状遺構



石列遺構



掘切状遺構

しゅりじょうせき しゅくじゅんもん 首里城跡「淑順門」

事業名：首里城跡「淑順門」地区発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町

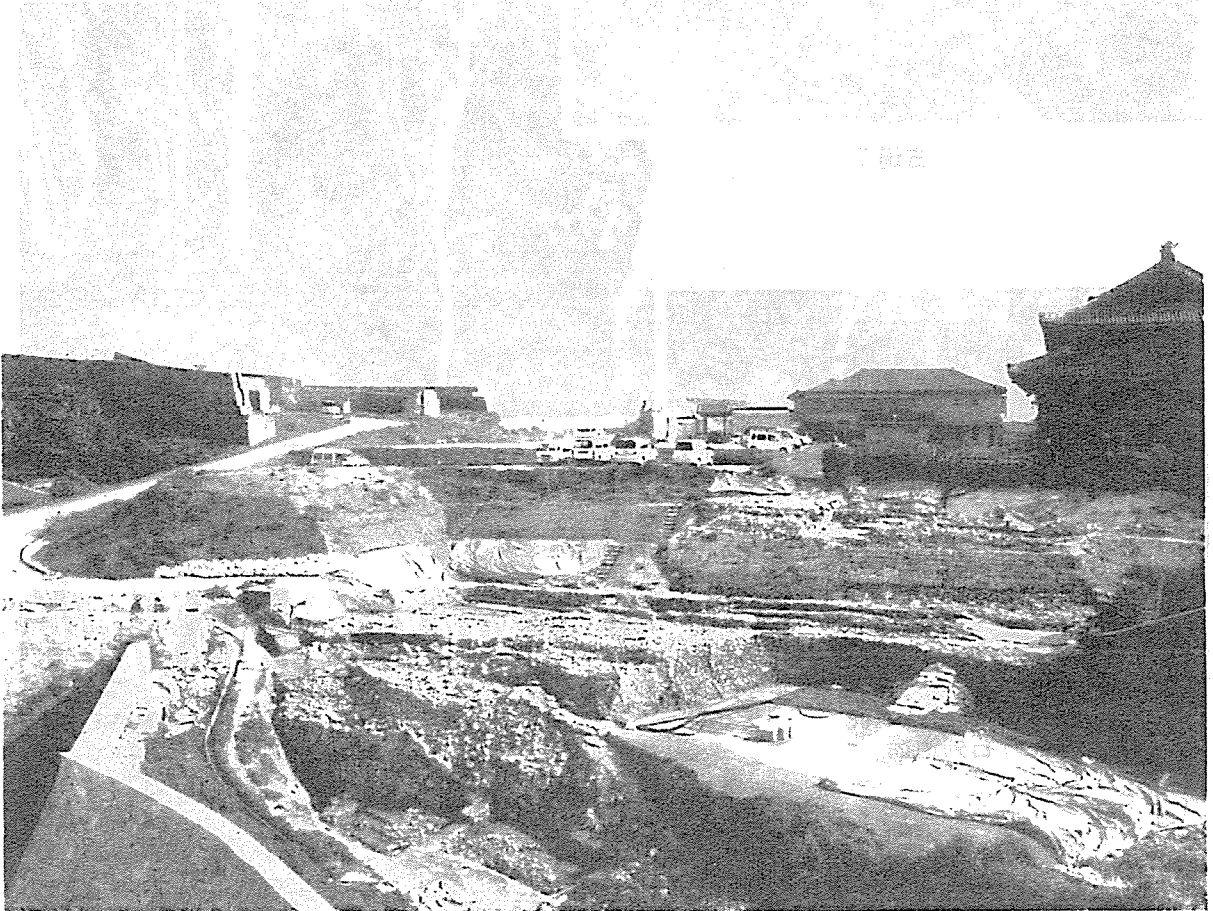
時代：グスク時代～近代

調査期間：2004（H16）年7月20日～2005（H17）年3月1日

調査内容：首里城跡では、史跡公園として整備するために事前の発掘調査を行っています。今回調査を行った淑順門は、国王の家族や女官たちの住む御内原（ウーチバル）へと繋がる門でした。

調査の結果、淑順門の基礎部分の石や、淑順門から御内原方向へ伸びる石敷きの階段が検出されました。また、淑順門の東西につながる城壁も、一部検出されています。

出土品には屋根瓦、金属製品（かんざし、釘）、貝殻、獣骨、中国産陶磁器、沖縄産陶器などがあります。



調査区全景



淑順門から御内原へとつづく階段



作業風景

しゅりじょうせき まだまみちあと
首里城跡 「真珠道跡」

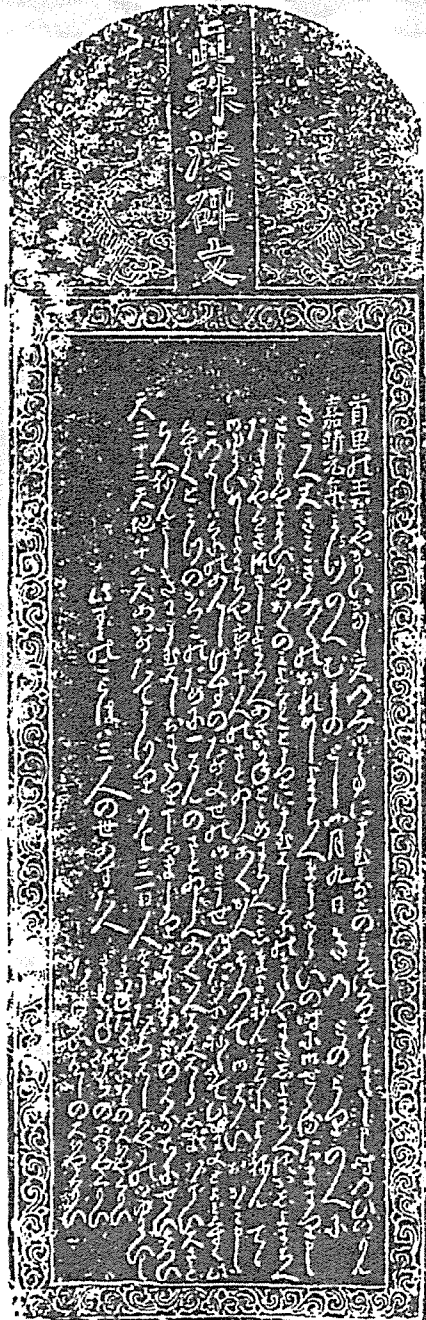
事業名：首里城公園整備に伴う調査

所在地：那覇市首里当蔵町・金城町

時代：グスク時代～現代

調査期間：2004（H16）年11月1日～2005（H17）年3月31日

調査内容：1522年に竣工・開通した真珠道の復元整備を行う目的で、平成15年度より調査を行っています。平成16年度は、平成15年度調査地区の西側の調査を行いました。その結果、当時の石畳道は去る大戦や道路工事の際の掘削で破壊されて、明確な石畳道の遺構は確認できませんでした。但し、岩盤の亀裂部分に石積みを確認することができました。この石積みが真珠道に関係するかどうかについては判りませんでした。



「真珠湊碑文」

1522（尚真46）年建立の「真珠湊碑文」は首里城守礼門東南脇の石門西側にありましたが、戦災により破壊され碑文の一部が県立博物館に保管されています。碑文の内容は真珠道と真玉橋架橋の竣工・建設などの由来を記してあります。真珠道は首里城守礼門東南脇の石門を起点に、金城・識名を経て那覇港の河口にあたる国場川に架かる真玉橋までの約4Kmを一般の交通の利便性を図ることと国土防衛のため王命により石畳道として建設されたようです。

（沖縄県教育委員会
『金石文－歴史資料調査報告書V－』1985より）



上空より撮影



石積遺構

すうばる こほぐん 潮原古墳群

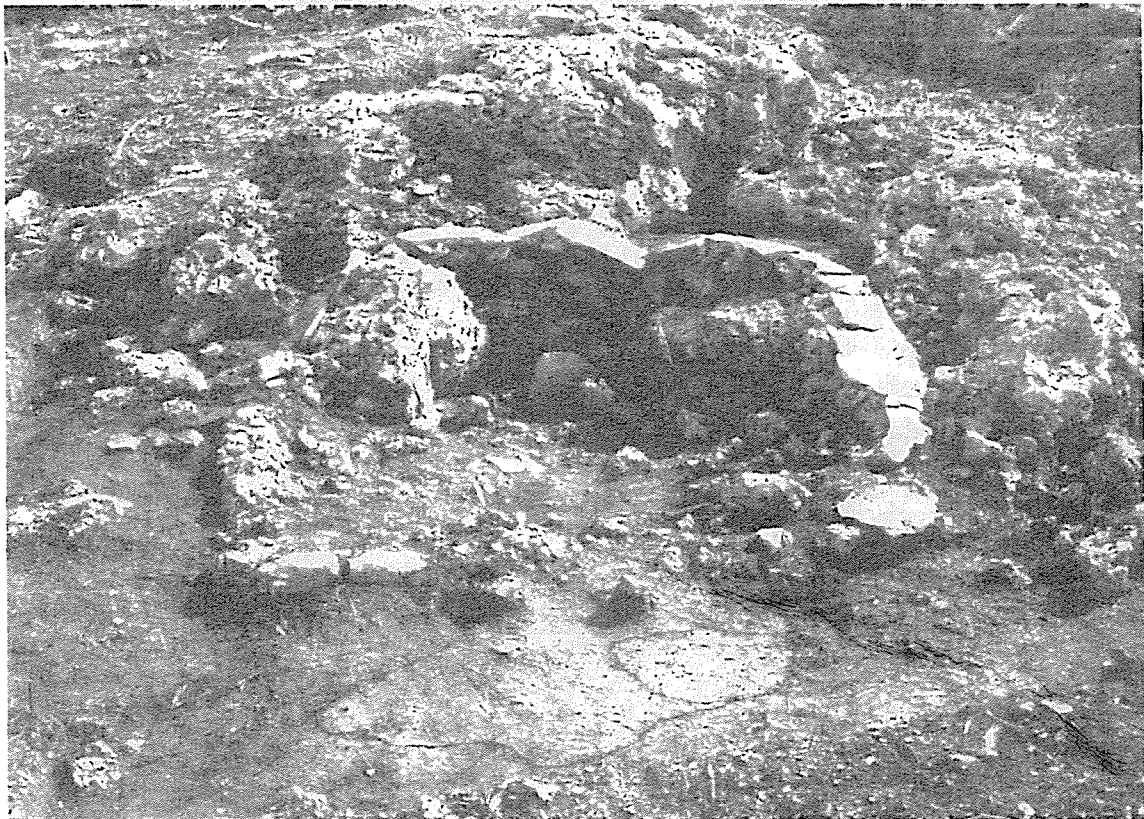
事業名：与那国空港東側拡張に係る緊急調査

所在地：与那国町字潮原 4740～4755 番地

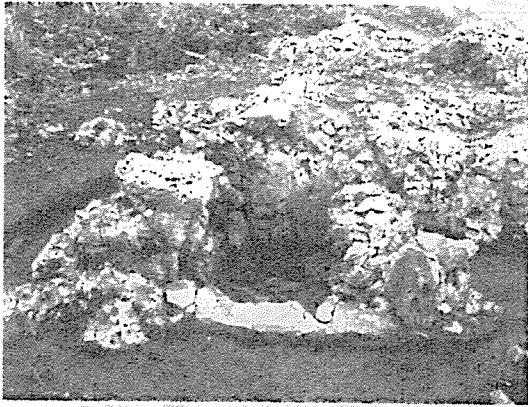
時代：近世～近代

調査期間：2004（H16）年12月1日～2005（H17）年3月18日

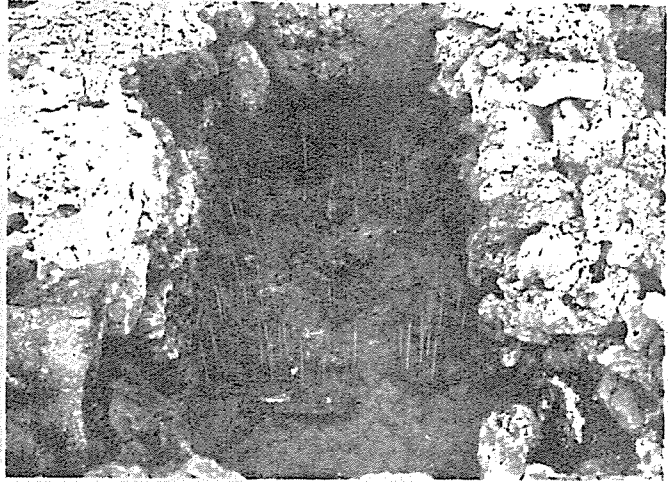
調査内容： 与那国空港東側丘陵一帯に古墳群が複数基、残存していることが確認されたため、土地買収が終了している部分で且つ空墓である古墳 13 基の発掘調査を平成 16 年度に行いました。調査の結果、横穴形態の古墳が 9 基、箱式石棺墓が 4 基という内訳であることが判り、後者においては複数体の人骨とそれに伴うと思われる副葬品が多数確認されました。古墳の使用時期は沖縄産陶器や清朝磁器から砥部焼、戦前のビール瓶などが出土していることから近世から沖縄戦前後までと長期間に及んでいたことも判りました。平成 17 年度は残り 15 基の発掘調査を実施する予定です。



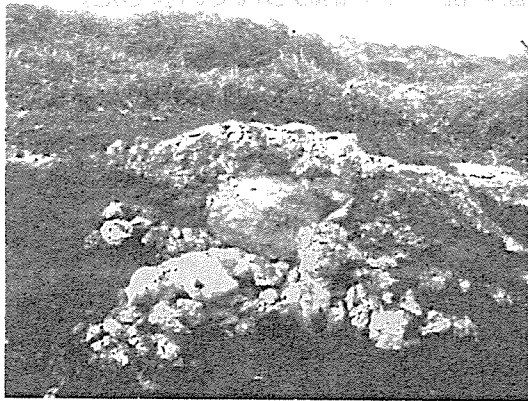
骨移転後に崩壊した古墳



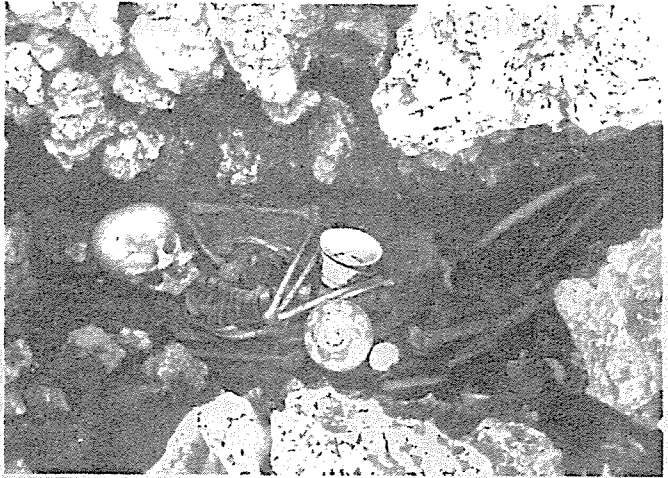
横穴形態の古墓



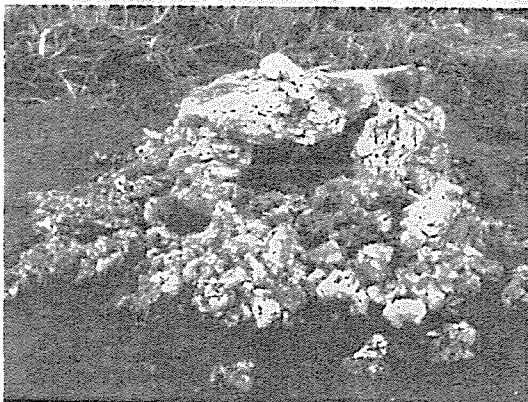
横穴形態の古墓（墓室検出状況）



箱式石棺形態の墓 1



箱式石棺形態の墓 1（墓室検出状況）



箱式石棺形態の墓 2



箱式石棺形態の墓 2（墓室検出状況）

いけだうえはらこぼ 池田上原古墓

事業名：池田上原古墓発掘調査

所在地：西原町字池田 813-1

時代：近世

調査期間：2004（H16）年 11月16日～11月26日

調査内容：本発掘調査は個人墓造営に伴う掘削中に、丘陵斜面の土砂内から掘込墓が発見されたために行いました。土砂によって完全に埋まっていたため、長い間その存在が知られていませんでした。

古墓は丘陵の斜面に構築されており、墓室内は方形に掘り込まれ、棚が設けられており、石厨子2基、厨子甕4基が置かれていました。それぞれの中には複数体の人骨と共に、キセルや簪、指輪等が副葬品として納められていました。

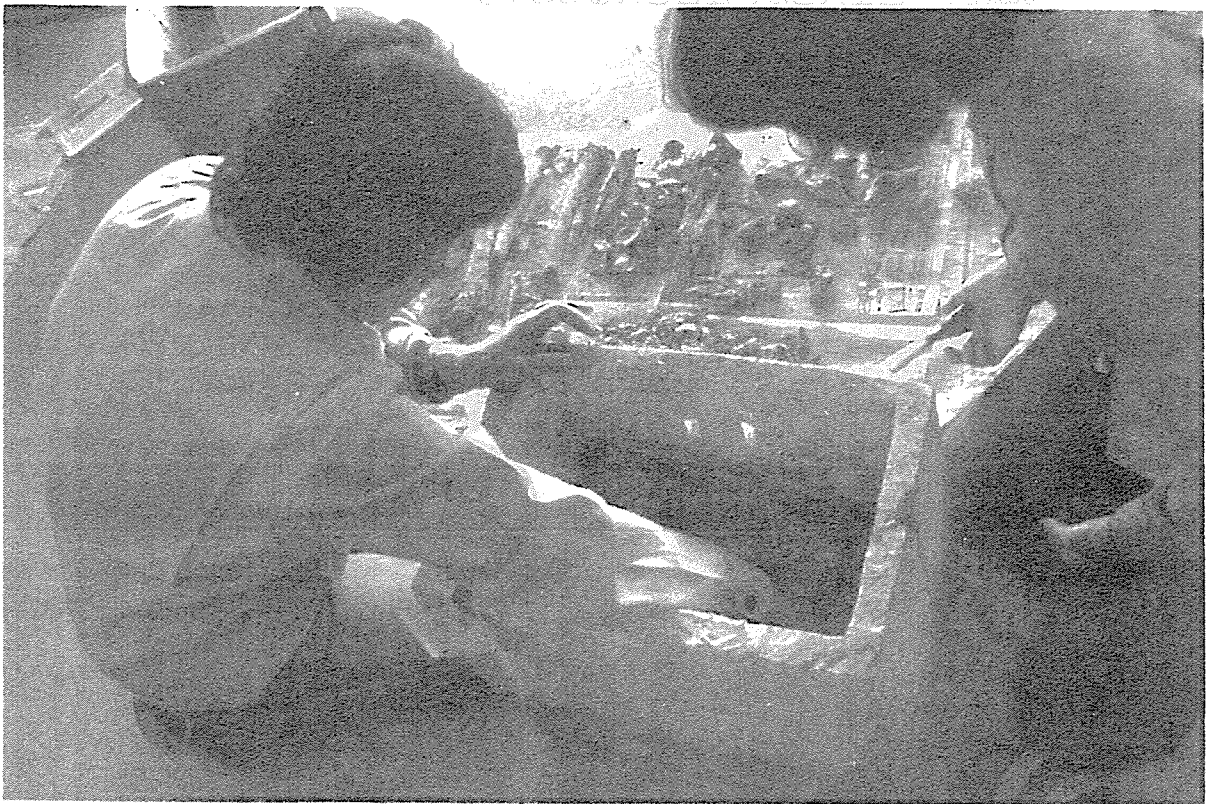


古墓近景



墓室内

石厨子の敷居裏に花野の跡が認められ、また、土間に散らばる
 土器の破片や、土間に埋め込まれた土師器の破片など、古くから
 人が住んでいたことがわかる。また、土間に埋め込まれた土師器の破片など、古くから
 人が住んでいたことがわかる。また、土間に埋め込まれた土師器の破片など、古くから
 人が住んでいたことがわかる。



石厨子内調査風景

石厨子内調査風景

しゅりじょうせき に かい でん 首里城跡 「二階殿」

事業名：首里城跡二階殿地区発掘調査

所在地：那覇市

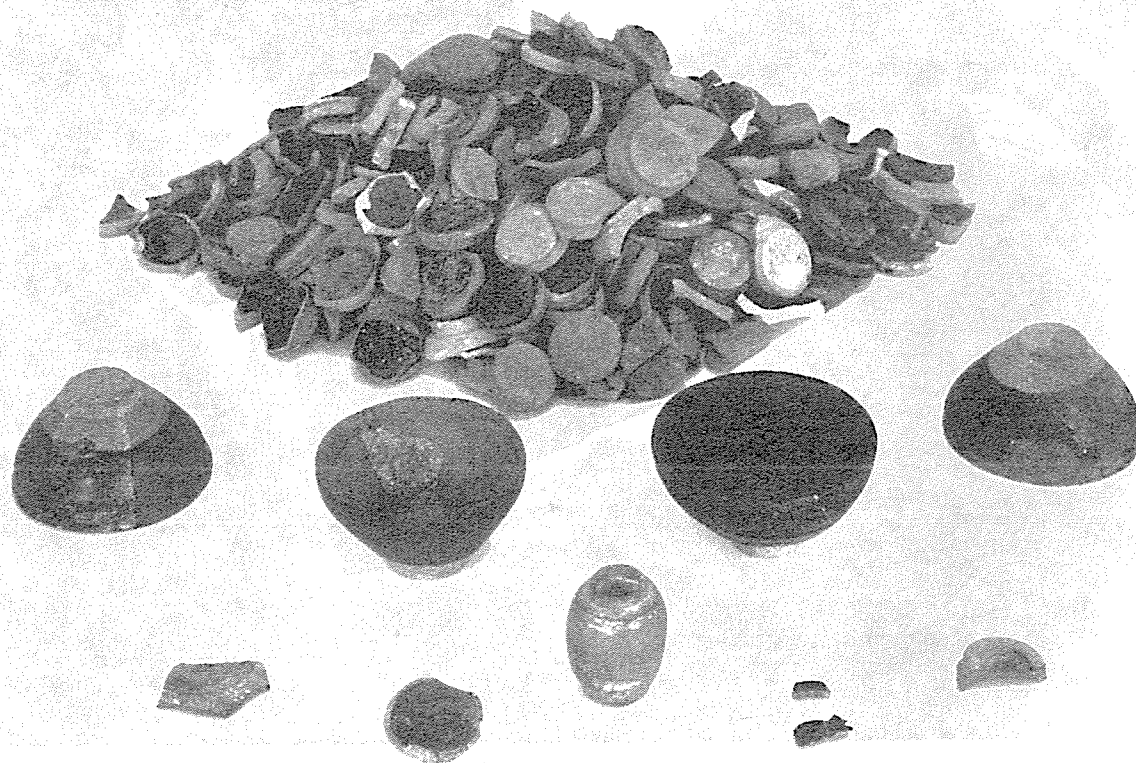
時代：14～20世紀

整理期間：2004（H16）年4月1日～2005（H17）年3月25日

調査期間：1997（H9）年8月4日～1998（H10）年3月31日

内容：この調査は平成9年度に実施し、平成16年度に報告書を作成しました。報告書の作成に伴い資料整理を行った結果、「首里城京の内跡出土陶磁器」（国指定重要文化財）に匹敵する資料であることがわかったため、今回展示することにしました。

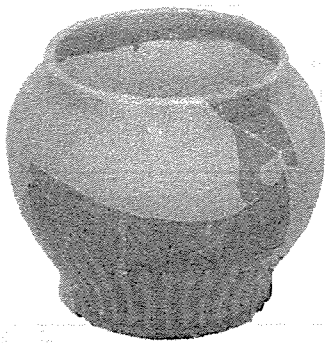
二階殿は1765年に、正殿の奥に国王の書院・私室として建てられた半二階の寄棟造の建物です。発掘調査では、この二階殿建物の階段・礎石・石敷等の遺構が確認できました。また、二階殿創建以前の落ち込み遺構や石敷SB4下層から14～15世紀の陶磁器がまとまって出土しました。特に落ち込み遺構から出土した元青花・青磁の優品やこれまでの出土量を凌駕するベトナム産陶磁器や中国産天目は、注目されるものです。



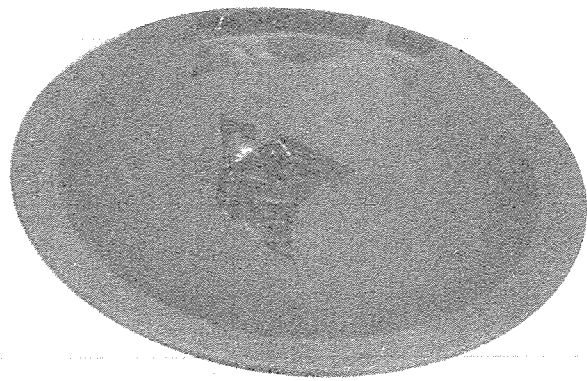
大量に出土した中国産天目



ベトナム産青花（魚）藻文盤



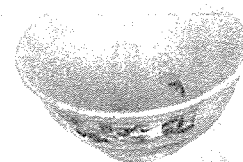
青磁酒会壺



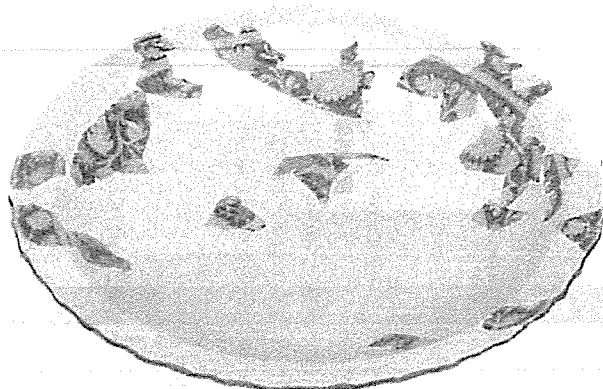
青磁龍文盤



青磁龍文盤



ベトナム産青花碗



青花蓮池牡丹唐草文稜花盤

沖縄の歴史年表 (調査遺跡の時代)

西暦	前50万~1万	前1万~前5,000	前4,000	前3,000
時代名	旧石器時代		早期	縄文 前期
沖縄の様相	港川人が現れる 山下町第一洞人が現れる		局部磨製石斧を使用する	土器の南島化がはじまる 曾畑式土器が入る
主な土器型式名			野圃第四群土器 爪形文土器	室川下層式土器
調査遺跡				
日本	旧石器時代		草創期	縄文時代 前期
中国				新石器時代

西暦	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	
時代名	弥生時代~平安時代相当期						古く時代		
沖縄の様相	714 信覚・球美人らが帰朝する このころ開元通宝が入る		751 鑑真ら阿児奈波島に漂着する	土器が無文化するようになる		農耕が広まる 陶磁器・石鍋・カミイ焼が 広く流通しはじめる	1187 舜天即位と伝わる	このころ首里城成立か 各地に大型古スクが現れる	
主な土器型式名	フエンサ 下層式土器								
調査遺跡	新城下原第二遺跡								
日本	古墳	飛鳥	奈良	平安			鎌倉	南	
中国	隋	唐		五代十国	宋	金		元	

前2,000	前1,000	0	後100	後200	500
時代			弥生時代～平安時代相当期		
中期	後期	晩期			
市来式土器が入る 貝・骨製の装飾品がつくられる			丘陵上で生活するようになる アカシヤンカ 式土器		
先島が無土器時代になり 貝片がつくられる			鉄などの弥生文物が流入 貝交易の盛期		
丘陵上に集落を形成			海岸砂丘上に集落を形成		
面縄前歴式土器			具志原式土器		
伊波式土器 菟堂式土器 大山式土器			宇佐浜式土器 仲原式土器		

西長浜原遺跡

新城下原第二遺跡

弥生時代			古墳時代		
中期	後期	晩期	前期	中期	後期
高銅器時代		殷	周	春秋戦国	秦
			漢	三国	晋
			五胡十六国		南北朝

1400	1500	1600	1700	1800	1900
三山	第一尚氏	第二尚氏 (前期)	第二尚氏 (後期) 近世琉球	沖縄県	
				近代	戦後
1372 景徳が明に入貢する	1429 尚巴志による沖縄本島の統一	1453 志魯・布里の乱により首里城焼失	1458 阿麻和利の乱が起る	1477 尚真が即位	1500 オヤケアカハチの乱が起る
		1529 守礼門が建てられる	1609 島津による琉球侵略	1616 張一六による清田燕の開港と伝わる	1660 首里城が失火により炎上
			1682 壺屋への窯場統合	1709 首里城が失火により炎上	1799 識名園の創設
				1879 琉球処分	1933 首里城の解体修理が行われる
					1945 沖縄戦
					1972 日本復帰
					1992 首里城正殿が復元される
					2000 首里城跡などが世界遺産に登録される

戦争遺跡

池田上原古墓

御茶屋御殿遺跡

潮原古墓群

新城下原第二遺跡

首里城跡

北朝	室町	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成
	明			清			中華民國	中華人民共和國

発掘調査のきっかけ（動機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（動機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査は、「学術発掘」とも呼ばれ、目的意識（研究テーマ）を持って取り組みます。それに対して行政機関（当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会など）がおこなう発掘調査は「行政発掘」と呼ばれ、その動機や原因によって大きく二つに分けることができます。

ひとつは、先人の残した貴重な文化的遺産である遺跡（埋蔵文化財）を後世に伝えるため現地保存を目的とした確認調査があります。具体的には、国や県・市町村指定の史跡（文化財指定を受けた遺跡）の保存・活用を目的とした史跡整備に伴う遺構確認調査、保存を目的に遺跡の範囲や性格などを明らかにする遺跡範囲確認調査がそれに相当します。

もうひとつは、道路工事や土地改良の諸開発に伴う記録保存を目的とした発掘調査で、開発のために消滅する遺跡を事前に発掘調査し、綿密な記録作成をおこないます。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりありません。発掘調査が行われた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては以下にお問い合わせください

- | | | |
|----------------|------|------------------|
| ○沖縄県立埋蔵文化財センター | 調査課 | TEL 098-835-8752 |
| ○沖縄県教育庁文化課 | 記念物係 | TEL 098-866-2731 |

第一 五十年來臺灣學發展之回顧

×毛

時間/類別	回顧一	回顧二
1950-1960	特種考察、調查、研究	學術研討會、學術會議、學術交流
1960-1970	非官非學組織之內部交流	學術研討會、學術會議、學術交流
1970-1980	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流
1980-1990	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流
1990-2000	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流
2000-2010	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流
2010-2020	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流
2020-至今	學術研討會、學術會議、學術交流	學術研討會、學術會議、學術交流

(2005 臺灣學術發展調查報告) 臺灣學術發展調查報告

行政院、僑務委員會、僑務委員會

學術研討會、學術會議、學術交流

學術研討會、學術會議、學術交流

學術研討會、學術會議、學術交流

學術研討會、學術會議、學術交流

學術研討會、學術會議、學術交流

學術研討會、學術會議、學術交流

平成 17 年度発掘調査等予定一覧

遺跡名・調査名	調査目的・原因	調査予定時期
首里城跡（御内原地区）発掘調査	首里城跡内郭整備に伴う調査	8月～1月
新大学院大学建設予定地内埋蔵文化財予備調査	新大学院大学建設予定地内の遺跡分布状況の調査	4月～5月 1月～3月
潮原古墓群発掘調査	与那国空港拡張計画に伴う調査	4月～8月
首里城公園発掘調査	首里城公園整備に伴う調査	1月～2月
基地内埋蔵文化財分布調査（普天間飛行場内）	基地内埋蔵文化財分布状況の確認調査	8月～1月
御茶屋御殿遺構確認調査	遺構状況確認調査	8月
戦争遺跡詳細分布調査（八重山地区）	八重山地域に所在する戦争遺跡分布調査	6月
沿岸地域遺跡分布調査	沖縄沿岸地域の遺跡分布状況の確認調査	6月～11月
横嵩原遺跡発掘調査	道路建設に伴う緊急発掘調査	9月～11月



調
069.9199
OK

平成 17 年度企画展「発掘調査速報展 2005」

2005（平成 17）年 7 月 26 日

編集 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査課 記録・普及係

発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

住所 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7

電話 098-835-8752

FAX 098-835-8754



第19回文化講座 「発掘調査速報2005」

8月13日(土) 午後2:00～午後4:00

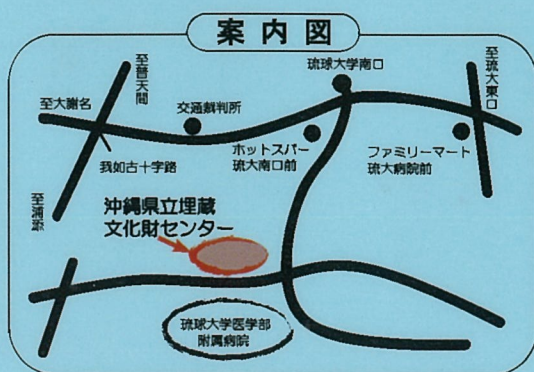
【場所】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

【講師】

御茶屋御殿跡	知念隆博 (県教育庁文化課)
戦争遺跡(八重山)	山本正昭 (調査課専門員)
沿岸地域遺跡	片桐千亜紀 (//)
首里城跡「淑順門地区」	羽方 誠 (//)
首里城跡「二階殿」	瀬戸哲也 (//)

- 休 所 日 毎週月曜日、国民の休日(こどもの日、文化の日を除く)
年未年始(12月28日～1月4日)、慰霊の日(6月23日)
※祝日と月曜日が重なったときは、翌火曜日も休所

- 交 通 ◇沖縄自動車道西原ICより 車7分
◇市外線バスターミナル発97番
「琉大附属病院前」下車 徒歩1分



沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7
TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754
<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>